会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和６年度第２回高松市創造都市推進審議会
開催日時	令和７年２月１３日（木）　午後１時３０分～午後３時１０分
開催場所	高松市役所１１階１１４会議室
議　　題	（１）会長・副会長の選任等について （２）第３次高松市創造都市推進ビジョンについて （３）第３次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について （４）ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請について（報告） （５）その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	佐々木委員、原委員、神髙委員、二宮委員、中村委員、 平田委員、若井委員、杉ノ内委員、俣野委員、三村委員
事 務 局	大西市長、次田創造都市推進局長、辻下創造都市推進局次長、幸田産業経済部長、松本産業振興課長、安田農林水産課長、植田観光交流課長補佐、平井産業振興課長補佐、岡本産業振興課創造産業係長、伊藤産業振興課主事
傍 聴 者	１　人　　（定員　５　人）
担当課及び連絡先	産業振興課　創造産業係 ８３９－２４１１

審議経過及び審議結果
１　開会 （市長挨拶及び出席委員・事務局紹介） ２　会長・副会長の選任等について **中村委員が佐々木委員を会長に推薦し、他の委員も承認。** **佐々木会長が原委員を副会長に指名。**

審議経過及び審議結果
３　議題（２）第３次高松市創造都市推進ビジョンについて及び議題（３）第３次高松市創造都市推進ビジョンにおける取組について 【事務局】 （資料１・資料２について説明） 【会長】 委員の皆様の専門的な見地から、今後、８年間を見据えて、「独創」の取組について、御意見を伺いたい。 【委員】 高松市が取り組んでいることの成果が出ているように感じた。今後の取組についても注目していきたい。 【委員】 「伝統的ものづくり」は後継者がおらず、衰退傾向にある。そのような厳しい状況下で、行政と力を合わせて立て直しを図るため、「TAKAMATSU OPEN FACTORY」の開催に協力した。県外から後継者になりたい人を募集したが、実際には観光気分の参加者が多く、後継者になり得る人材発掘にはつながらなかった。参加者募集のリーフレット等を配布するだけでなく、開催の趣旨について行政等が説明する必要がある。 また、「高松市伝統的ものづくり後継者育成支援奨励金」について、１人の受入れにつき、最大で年間６０万円の補助金が出るが、令和６年度は予算が少なく、高松市の「伝統的ものづくり」が２３品目あるなかで十分ではない。ロゴマークやＰＲ動画のような新しいものの制作にばかり予算を充てるのではなく、何百年と歴史がある「伝統的ものづくり」の分野にもっと予算をかけてほしい。成果を出すつもりで行政には本気で取り組んでいただきたい。 【会長】 現場の組合や会社としっかり打ち合わせをしなければ、すれ違いが起きてしまう。反省点などはあるか。 【産業振興課】 「TAKAMATSU OPEN FACTORY」については、本市主催で初めて開催したため、手探りの状態だった。高松市の「伝統的ものづくり」は２３品目あるが、どれも後継者不足が課題である。今年度は、庵治石と香川漆器の分野に限

って開催したが、将来的には他の品目に広げていきたい。
　参加者や産地へのヒアリングを通じて改善しながら、次年度以降、引き続き実施していく予定である。

【会長】
　福井県鯖江市・越前市・越前町全域で開催している「RENEW」のような成功事例を参考にしながら事業改善に努めてほしい。

【委員】
　不登校児には、音楽や美術などの芸術が得意な子どもが多いが、不登校であったり、学習障害があったりするために、美術大学や工芸高校への進学がかなわない子どももいる。現行の学校の教育プログラムに馴染めなかった子どもでも、庵治石などの伝統工芸分野の担い手としては活躍できるかもしれない。教育・福祉の分野と伝統文化の継承といった産業分野をうまく紐づけられると良い。

【会長】
　全国の創造都市の中には、障がい者アートや農福連携に積極的に取り組んでいる自治体もある。
　伝統工芸×障がい者のように、分野を超えた連携を考えるのも良い。

【委員】
　鬼無・国分寺地域での、欧米豪の富裕層をターゲットとした高松盆栽の振興・PR の取組については、ニュースで見かけたことがある。香川県とも連携しているのか。

【農林水産課】
　「地域一体となった高松 BONSAI コンテンツ創造事業」については、市の単独事業である。一方、県については、海外に向けた取組として、特に、ヨーロッパでの盆栽のＰＲ活動を進めている。令和６年度については、高松盆栽の生産者に協力いただき、フランスで盆栽デモンストレーションを行うなど、県と市が協力し、海外への盆栽の普及・PR を推進している。今後も機会を捉えて、取り組む予定である。

【委員】
　鬼無・国分寺地域にフランスから視察が来ていたことや、フランスでＰＲ活動を行っていたことを後から知った。事前に知らせてもらえれば、香川日仏協

会として連携・協力ができたと思う。例えば、パリ（フランス）に香川県人会を作った。この県人会の代表は高松市出身なので、事前に相談してもらえれば、現地対応など協力することができた。

世界都市高松の実現のため、横の連携等の情報共有・情報交換を行い、ネットワークを有効活用してほしい。

【委員】

議題の中で紹介された事業について、ほとんど知らなかった。情報発信に課題があるように感じる。

また、１つ１つの事業がビジネスとして利益を生み出し、維持していける仕組づくりが必要である。

【委員】

令和２年の法改正により、灯台の各種利用が容易になり、海上保安庁も活用促進を行っている。私自身も別地域で灯台の観光活用に関わっており、その地域からは多くの興味深い逸話や地元の愛着を感じるエピソードを聞くことがある。また、灯台と併設されている官舎を宿泊施設として利用する試みなど、ビジネスの観点からの利用も検討されている。男木島と女木島は海上に位置する美しい場所であり、その地域の文化や観光資源を最大限に活用して活性化につなげられるとよい。

【委員】

新規の取組には失敗もあるが、その挑戦そのものが重要であり、進捗状況や結果をしっかり伝えることが大切である。しかし、高松市の最新の情報が常に更新されているとは言えず、これは致命的である。例えば、「TAKAMATSU OPEN FACTORY」のＨＰを調べると、高松市のホームページは内容が削除されていて情報が得られなかった。これでは、行政の活動が伝わらない。予算・決算を含めて公表する必要がある。

また、目指す将来像として「芸術指数」が高いまちを掲げているが、芸術に関わる市民の比率を教えてほしい。

【産業振興課】

「TAKAMATSU OPEN FACTORY」については、約１２０万円で実施した。ご指摘のとおり、イベントが終了してから、現在、ＨＰを見られない状態になっているので実施経過について掲載したい。

【文化芸術振興課】
令和５年度のアンケート調査では、「自身が文化芸術活動をした人の割合」は１７％、「文化芸術を鑑賞した人の割合」は５１．９％、「文化芸術が盛んなまちだと感じる人の割合」は４８．５％であった。
アーツカウンシル等による支援活動を通じ、これらの数値を高めていきたい。

【委員】
独創的な高松を考えた時に、海がある環境をいかした新しいブランド、例えば「海から見る灯台めぐり」などよいのではと感じた。
また、大学の教員をしているが、大学は行政と関わりが浅く、面白い取組をしていても行政に伝わっていない。今後のユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を見据えて、行政として、大学にアンテナを張って、情報を仕入れ、連携・協力していく機会を捉える必要がある。

【副会長】
他の委員の話の中で、居場所づくりや協力・連携、アップデートなど様々なワードが出てきたが、それらをリードする中心となるプラットフォームや仕掛けが必要になると感じた。高松市は、文化・観光・スポーツ部と産業経済部が同じ局にある組織体制のため、他の都市よりも横のつながりやプラットフォームを作りやすいのではないか。
観光交流課の事業として、「Summer Pockets」を活用した男木島・女木島の観光コンテンツ整備が紹介されていたが、ゲームが持つ影響力はとても大きい。「Summer Pockets」に絡めてゲーム的な思考を活用すれば、自分ごととして考えるきっかけになる。
資源の有効活用や情報の発信が今後、重要となる。会議に参加している各分野の委員から１つでも具体的なアイデアが生まれればよい。

【会長】
香川漆器と輪島塗のコラボ作品の制作のような、被災地に光が当たるような事業はすばらしいと思う。
高松市の特徴的な事業として「芸術士派遣事業」があるが、始めは小さな予算で始めて、評価を得るにつれて予算が増えた。盆栽、庵治石など、様々な分野で新しい事業が生まれているので、改善しながら実行していくとよい。

４　議題（４）ユネスコ創造都市ネットワーク加盟申請について（報告）

【事務局】
（資料３について説明）

質問・意見なし。

５　閉会